役員の会議参加のための諸経費は手弁当・会議場費。事務員の旅費については学会が負担することの説明が金久会長よりなされ、承認された。

(2) 学会の規模および学会でするべきことについての協議まず金久会長から、International Society for Computational Biology(ISCB)の現在の会員数が500名程度であるとの報告がされ、現在200名足らずの学会の規模をどのようにして大きくするかについて協議された。

藤田副会長より、知名度が低いとの意見が出され、各役員や企業のホームページからJSBIのホームページへのリンクを張ったらよいのではという提案がされた。

学生のメリットについて考える必要があるとの意見が田中指導員より出され、
1. 会費を安くする（現行通り）
2. JSBやPSBなどの国際学会参加のための旅費を支援する（金久）
3. アカレ情報ワークショップ（GIW）の参加は会員のみにするか（富田）
等の意見が出された。2.に関しては具体的にISCBと共同で行うことで話は進めていくことになった。3.に関しては、学会全体のメリットとして、プレシーディング代を現行3000円から5000円に値上げし、費用は2000円で貰えるようにするとの提案が金久会長よりされた。参加費は従来通り無償にする予定。

学会が何をするべきかを決めたほうがね。予算計画を立てやすいのではないかとの意見が小長谷評議員より出され、金久会長から会則にしたがって説明があった。
1.総会  2.評議員会  3.年会  4.刊行物の出版  5.研究会
これに加え、3年後（平成14年5月）に学会年度への記念をすることを目指していけるとの説明が宮野評議員よりされた。学会年度の記念には、1）登録会員数300名以上。2）年1回の総会を開いていること。3）刊行物があること。の条件を満たす必要があると説明も同時にされた。の刊行物に関してはGIWのプロキシーディングが使われそうだとのこと。

・賛助会員（一口5万円）を増やす方法について
1. JBICを窓口として宣伝してもらう。（根本）
2. 具体的なアクティビティーを示す。（秋山）
3. メール情報を処理し、インシアチブの例（企業に対するメリットのリストアップ）について。（秋山）
4. 会長名で趣味書と申込書を送付する。
5. 趣味書と申込書の宛先は研究本部長または研究開発担当役員宛が適当（根本）
6. 代表印よりも研究開発担当役員印の方が遅い（福島）

・バイオインフォマティクスのコースを作る
1. オンライン大学、単位の認定（学生のメリット）。
2. トレーニングコースの設置（小長谷）
3. 商用ツールの利用法を含めたコースの方が企業にとってのメリットもある。（江口）
4. トレーニングコースの設置とともに情報処理第1種試験などの認定試験はどうか（宮野）
5. スイスでのバイオインフォマティクス養成についての説明（藤田）
6. 夏のチュートリアルを開催（秋山）。情報だけでなく実験のコースは
これらについては、ワークショップでカリキュラムを作成する。